

週報

號日六月三

第一七七號

昭和十年三月六日

日曜三種郵便物認可

行(毎週一回水曜日發行)



五錢

支那事變の意義

時局と綠地計畫

支那事變貯蓄債券の使命

蔣政權の經濟力

海軍と氣象

米次官の訪歐と和平問題

特別二千六百年史抄(金)

内閣情報部參與 菊池 寛



露光量違いにより重複撮影

週報 (三月六日)

支那事變の意義

陸軍省情報部
時局と練地計畫 内務省
支那事變貯蓄債券の使命……元
蔣政権の經濟力 陸軍省情報部
歐戰時局の宣傳活動……元
海軍と氣象 海軍省海軍部情報部

米國務次官の渡歐と和平問題

外務省情報部
紀元二千六百年史抄 一五
内務省情報部 池 寛

週

三月二十五日(金) 前夜追加
▼中南支線視察中の秩父宮殿下御歸還
三月二十六日(土)
▼獨伊通商協定改訂による新通商協定調印 ▼伊土通商協定調印

間

三月二十五日(日)
▼海軍側第十一回論功行賞發表、二百八名恩賞にあづかる ▼物價對策會議(會務設置開議決定) ▼寶藏寺久雄中將等六氏の搭乘機京都府で墜落、一同殉職

日誌

三月二十六日(月)
▼一月中の綜合戦果、敵の遺棄死體七萬七千六百、捕虜四千六百餘、我が軍の戦死七百九十名と大本營陸軍報道發表
▼海軍航空部隊貴族、瑪瑙等爆撃 ▼大日本航空の龍鳳號日泰定期の第二回準備飛行に出發 ▼内閣情報部長更迭、楠濤光陸軍氏に代つて熊谷憲一氏新任 ▼ウエルズ米國務次官、ムツソリニ伊首相を訪問、ルーズベルト大統領の報告を手交
三月二十七日(火)
▼天皇陛下、陸軍士官學校第五十三期生徒卒業式に臨臨 ▼島田農林大臣、右馬産報中央會々頭に産業組合の保險事業進出中止方を通牒
三月二十八日(水)
▼中央物價委員會總會に於て特免綿織物藥用品等十七品目の公定價格決定 ▼輸出入造船製品價格統制規則公布
三月二十九日(木)
▼淺田九より拉致のドイツ人九名、横濱港外に於て我が方に引渡さる ▼國民學校調査委員會總會、國民學校令之可決 ▼農林省、大豆油粕の販賣價格指定

陸軍記念日

露光量違いにより重複撮影



週報 (第一七七號)

内閣情報部編輯

支那事變の意義

陸軍省情報部：三
時局と練地計畫 内務省：九

支那事變貯蓄債券の使命：……九

特政權の經濟力 陸軍省情報部：三

歐戰の宣傳戰術：……二六

海軍と氣象 海軍省海軍軍事資料部：三

國際時事解説

米國務次官の渡歐と和平問題

外務省情報部：三

紀元二千六百年史抄 (一五)

内閣情報部編輯 池 寛

週間誌

二月二十三日(金) 前編追加

▼中南支線御視察中の秩父宮殿下御歸還

二月二十四日(土)

▼獨伊通商協定改訂による新通商協定調印

二月二十五日(日)

▼海軍側第十一回論功行賞發表、二百八名恩賞にあづかる

▼物價對策委員會(前期)設置閣議決定

▼寶藏寺久雄中將等六氏の搭乗機京都府で墜落、一同殉職

二月二十六日(月)

▼一月中の綜合戰果、敵の遺棄死體七萬七千六百、捕虜四千六百餘

我が軍の戦死千七百九十名と大本營陸軍報道部發表

▼海軍航空部隊其後、鷹潭等爆撃

▼大日本航空の體風號日奉定期の第一回準備飛行に出發

▼内閣情報部長更迭、藤澤光輝氏に代つて熊谷憲一氏新任

▼ウエルズ米國務次官、ムツソリーニ伊首相を訪問、ルーズヴェルト大統領の親書を手交

二月二十七日(火)

▼天皇陛下、陸軍士官學校第五十三期生徒卒業式に臨御

▼島田農林大臣、有馬産組中央會々頭に産業組合の保險事業進出中止方を通牒

二月二十八日(水)

▼中央物價委員會總會に於て特免綿織物學用品等十七品目の公定價格決定

▼輸出入造船製品配給統制規則公布

二月二十九日(木)

▼淺岡九より拉致のドイツ人九名、横濱港外に於て我が方に引渡さる

▼國民學校調査委員會總會、國民學校令を可決

▼農林省、大豆油粕の販賣價格指定



支那事變の意義

陸軍省情報部

茲に日露戦争第三十五周年三月十日の陸軍記念日を迎へるにあたり、わが先輩の勇士、國民が、大國難を突破せる當時を偲ぶとともに、現に吾人の直面しつゝある大國難である支那事變について、更にその特質、意義を再認識し、これが突破に對する決意を固めんとする次第である。

一、支那事變の特質

支那事變の目的意義は、あらゆる角度から解釋せら

ねばならぬ。その勅語の中に於て、
七十二回帝國議會開院式に賜はりたる勅語の聖旨であら

帝國ト中華民國トノ提攜協力ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ擧クルハ是レ朕カ夙夜軫念措カサル所ナリ中華民國深ク帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘ遂ニ今次ノ事變ヲ見ルニ至ル朕之ヲ憾トス今ヤ朕カ軍人ハ百艱ヲ排シテ其ノ忠勇ヲ致シツツアリ是レニ中華民國ノ反省ヲ促シ連ニ東亞ノ平和ヲ確立セムトスルニ外ナラス

と仰せられてゐる。されば事變の目的は日支提携のため
の抗日政權の膺懲戰であるといふことが第一義である
ことは明らかである。

そもくアジアの諸民族は過去三世紀の間、ヨーロッパの政治的壓迫と經濟的搾取とを共通に蒙つて來てゐる。若し今日までのやうに日支兩民族が國民的感情を尖鋭化し、事毎に反撥と抗争を繰返しゆくときは、徒らに歐米及びソ聯の策謀に乗ぜられ、その植民地として呻吟せざるを得ない。アジアの獨立と解放の希望は全く失はれるに至るのである。善隣友好であるべき日支兩國が、近世何故に仇敵の關係となつたかについては、彼我

に於て深く反省すべき幾多のものがあらう。即ち支那は國際資本、國際共產黨の力に依存する過去の性格を、日本もまた舊き秩序の中にあつて支那にのぞまんとする性格を、共に拂拭して新らしき世界觀による民族的結合を完成しなければならぬ。

新らしき世界觀とは各民族互に其の本来を尊重し各、その處を得、對立を超えた共存共榮彌榮の實を擧げんとするもので、先づこれを日、滿、支の間に施して東亞に新らしき秩序を確立し、其の平和興隆を圖ると共に、世界の平和と進運に寄與せんとするに在るのである。

従つて事變處理に當り、列強に對する態度も此の理念に基づき反省の要求に外ならぬのであつて、敢へて東亞の天地より列強を排擠せんとするものではなく、却つて我に對する善意と理解ある積極的協力を嚮望する次第である。

わが帝國政府の對支處理方針なるものは、實にこの信念に立脚し現實に即して進められつゝあるものであつ

て、東亞の將來を思ふ大乗的考へ方以外の何物も含まないものである。頑迷なる抗日分子が今猶ほ迷夢醒めず皇軍に抵抗し、列強は帝國の此の崇高なる意圖を解せず徒らに自己の抱懐する舊き性格に基づく理念を以て帝國を嫉視猜疑し抗日政權援助を繼續しつゝあるところに、執拗なる抗戦が進められてゐる譯があるのである。従つて、帝國政府の聲明を、聖戰の美名にかくれた一種の欺瞞の美辭、虚偽の麗句と、第三國人が稱へることはまだしも、わが國民中にもかゝる考へに捉はれ、信念を缺くものがあるならば不幸これより大なるはない。

さてこの對支武力戦なるものは幾多の特質を有することを知る必要がある。先づ地形的に東亞大陸の廣大なことは、退避戦法、消耗戦法を探る敵をして残存の餘地を得しめ、戦ひをして長期持久化せしめる。また對支作戦は單に支那を相手とする戦ひではない。援將、諸國の力を借りる抗日諸勢力との戦ひであることは、今さら説明を要しないところである。かゝる複雑なる國際環境裡に於て、日清戦争直後に

於ける三國干渉の轍を踏まないためには、今次事變の特質を確實に把握し、政戦兩略共に、施策に周到なる用意を要する次第であつて、猪突的に猛進することを許さな

いものがあるのである。即ち支那大陸の武力戦が長期持久戦化し、今日の状態を現出することは自然の歸決であると見なければならぬ。しかも今次事變の將來に重大なる影響を及ぼすものに、現時歐洲戦争の問題があるのであつて、これがたゞ我が事變貫徹の方針に動搖變更あるべき筈はないが、變轉極まりなき歐洲の情勢にも深き關心を要する。蔣黨軍が今後幾許の抗戦力を保有し得るやは豫測し得ないが、敗戦に敗戦を重ね、ゲリラ戦やわが國內疲弊を唯一の頼みとして長期抗戦を呼號するとも、勝敗の決は既に定つてゐる。

以上は單に武力戦の見地から特質を説明したのであるが、本事變は一面深刻なる思想戦、經濟戦、外交戦、謀略戦が武力戦に伴行、若しくはこれに交錯して行はれてゐるのであつて、今日の段階に於ては、後者が特に

重要な部面を占めつゝあることを認識せねばならぬ。

即ち思想戦に於ては、帝國の俯仰、天地に愧ぢざる堂々たる聖戰、新秩序建設の主張が、各種の形に於て支那側の抗戦陣營の反省動搖を促進し、北中支の既成政權、汪精衛一派の熱烈なる共鳴を得て全支に瀰漫しつゝあるに對し、抗戦到底派は必死になつて抗戦陣營の崩壊を喰ひ止めんと努力すると共に、國共相剋の苦しい羽目に苦惱しつゝあるのである。即ち敵側陣地の内部及び後方に於て矛を逆にし帝國及び和平建國を主張する先覺の同志の傘下に加らんとする機運が熟しつゝあることは否定し得ない事實である。

又經濟戦に於ては支那側の對外援將ルートの一部を遮断せられ、財政、物資自給力、輸入力共に極度の困窮状態に陥りつゝも援將借款の獲得に狂奔すると共に、長期抗戦の虚勢を張つてゐるのである。殊にわが國內一部言論機關の無責任な物資不足の報道を以て、帝國の戰時實質的財政經濟力の破綻愈々切迫せりと臆断し、これを内

外に宣傳しつゝある。更に外交戦に於ては第三國の帝國に對する猜疑と支那に對する野心を利用し、抗戦能力、並びに帝國の陰謀捏造、或ひは哀訴等のデマ宣傳、外交手段を盡し第三國の援將命脈の繋持、帝國と第三國との離間に浮身をやつしてゐる。

謀略戦に於ては和平陣營派要人に對する狂暴なるテロを敢行し、その切崩しに必死になつてゐる。以上は武力戦以外の戦ひの卑近な極く一部を紹介したに過ぎぬが、これを以てしても支那事變は國民の事變貫徹に對する不動の信念と不退轉の決意が如何に重要であるかといふこと、今次事變の複雑性を認識し得る筈である。

かゝる情勢裡に於て支那事變の終結を焦慮するが如きは、敵をして乘せしめ、かへつて事變の解決を遷延複雑化せしめるものである。

二、長期建設戦の意義

支那事變は容共抗日蔣政權の潰滅せられる日を以て

一應終結するものといへる。而して日支をして再び今次事變の如き不幸なる事態を再起せしめざるためには、昭和十三年十二月二十二日近衛總理談中にある、支那の獨立を保全する一方、わが國との善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧げなければならぬ。即ち善隣友好の實を擧げんがためには日、滿、支三國は各般に互つて親密化を圖らねばならぬ。吾等日本國民としては島國日本に非ざる大國日本國民としての胸襟と東亞の指導國家としての自覺をもつことが必要となる。次には東亞の防衛力を現實に強化し得るの態勢を完整しなければならぬ。この東亞防衛の任務は、わが帝國以外にこれを擔當し遂行し得るものはない。これによつて北方及び西方より侵入せんとする赤化勢力を制し、南は西太平洋の制海權の把握に資し得られることとなる。次に日、滿、支を中心とする經濟結合によつて世界經濟ブロック戰に耐へ、勝ち得る自給自足を増強し得ることとなり、わが新東亞建設の聖業も確固たる基礎を得られることとなる。

これ等の諸原則の實效を收めるためには、今後わが國家國民の長期に亙る多大の努力を要することとなり、支那事變は一面長期持久戰、一面長期建設戦といふ相貌を呈し來つた。この建設戦によつて始めて東亞民族の念願とする新秩序は確立せられ、東亞の舊秩序、即ち西歐の政治、經濟侵略勢力や共產勢力の魔手より脱却し、解放せられたる東亞の黎明を迎へ得ることとなり、東亞民族の繁榮を齎し得ることとなる。

世には支那事變に於て數萬の尊き犠牲を拂ひ、百數十億の國帑を費したるにもかゝらず、領土も欲せず、賠償金も取らざるの戦ひを、文字通りの白紙論を以て判斷し、多大の犠牲を無意義なりと叫ぶ者あるも、日滿支の心からなる提携は一面に於てはわが國防力を強化し、わが國の世界政策の基礎を固め、わが皇道の宣布を基調とするこの支那事變處理の具顯を見るならば、尊き英靈も満足せられることと拜察する。

成程、犠牲の代償として領土や賠償を取ることは、皮相な功利主義からいへば何等差支へはないともいへや

うが、かくては敗戦の支那民衆はいよ／＼抗日思想を深刻化し、聖戰の目的を没却するのみならず、いはゆる永久の對立抗爭の運命を辿らなければならないことは火を見るよりも明らかなことである。殊に民族精神に目ざめたる現代支那は、昔日の支那ではないことを考へなければならぬ。日支の大禍を轉じて福となすためには、勝者は謙讓の精神を必要とする。これによつて敗戦支那をして、わが帝國と共に共同の理想と光明ある將來に向つて相携へて進み得しむることとなる。現に滿洲帝國は今次事變に方つても、わが帝國の國策に誠心を披露して協力しつゝあるのであつて、これ一にわが八紘一宇の精神の實證でなくて何であらう。

國の對支援助は、一に支那が新東亞の一翼として帝國の援助を無用とする完全なる状態に育成する趣旨に於て行はれねばならぬこと勿論である。

三、新中央政府問題

わが帝國の事變處理の眞意に共鳴して立上つた汪精衛、蔣介石の抗戰建國に對し、和平建國を以て新支那を建設せんとする汪精衛を中心とする新中央政府も近く成立せられる氣運にある。

新中央政府の誕生は東亞民族の喜びであると共に、抗戰重慶政權の悲しみである。吾人はその發展に對し全幅の協力を示し、速かに戰禍に苦しむ民衆を救はなければならぬ。

而して新政府の前途には幾多の難關が横はつてゐる。蔣介石の抗戰あり、第三國の妨害がある。従つて、たとへ近く新中央政府成立するとも、實質的には速急なる事態の變轉は望むべきではない。

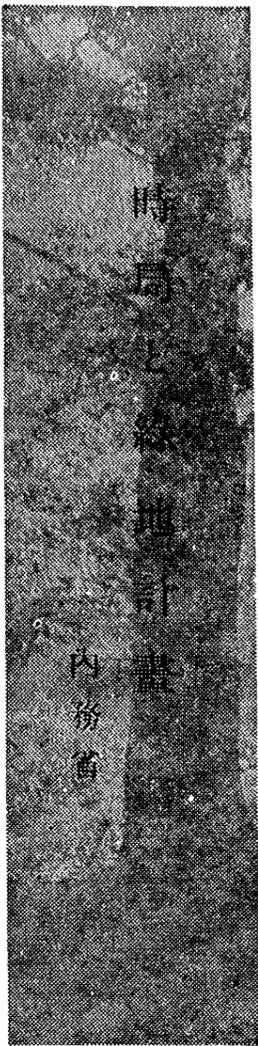
世には新政権を無力なりとし、事變の將來に兎角の論議をなす者もあるが、帝國が新政権を絶対に支持すると共に新政権をして思ふ存分その手腕を發揮せしめるならば、やがて頑迷な蔣政権に反省を與ふるに到ることを期待するものである。

結語

支那事變の完遂に、果してわが國力が耐へ得るや否や、と論議するものがあるが、これは一にわが國民の決意の如何によつて決するといへる。
わが帝國は支那事變のため既に多大の國力を費した。然るに一面生産力の擴充は年一年に増強せられ、事變前の二、三倍に達しつゝあるのを見る時、如何に今日のわが經濟力が偉大になりつゝあるかに驚かざるを得ない。
日支戦争三年に垂んとするに、わが國土は未だ嘗て戰禍を蒙らず、且つ生活必需品の大部に恵まれてゐるため、銃後國民の中には戦時日本を忘れ、第三國人の如き言動

を弄し、かへつて利敵行爲をなしつゝあるものがある位である。
われ／＼が確乎として戦ひ抜きつゝある力の原因は何か。正にこれ勅語に宣示し給へる今次聖戰の眞義に徹した聖業冥讃のため生命を奉還して第一線に活躍する將兵やその家族のあることに考へ及ぶ時、誰か感激しないものがあらうか。

これを要するに、支那事變は當代日本國民に與へられた建國の皇譚顯現のための光榮ある「行」である。われ等は一億一心大御心に歸一し、潔齋して「行」に精進する心得を以てこれに當つたならば、如何なる困難も突破し得、偉大なる光明を與へられ、しかもこれを東亞延びては全世界の民族にも惠澤せしめ得ることを知らねばならぬ。



緑地の價值(必要なわけ)の變遷

「存在價值」の時代

都市に緑の空地を設けておかねばならないことは、既に前世紀の終り、都市計畫の體系が立ち始めた頃から唱道されてゐたが、當時はこの國でも、都市が今日ほど大きくはなかつたので、その目的もせい／＼都市の美観とか、王侯の権力を表現するためとかいつた程度のものであつた。少し時代が進むと、人間は炭酸ガスを吐きだ

し、植物は炭酸ガスを同化して酸素をだす、人間が酸素の多い清浄な空気を吸ふことが保健上緊要であることがわかり、そのために、樹木の多い緑の土地が都市の中に大切なことが認められてきた。當時は主としてこれら裝飾のためとか、呼吸のためとかから緑地「存在」の必要が論ぜられた。この意味で、その時分を緑地の「存在價值」を認識した時代であるといつてゐる。

「利用價值」の時代

産業革命を受けついで、今世紀に入り、各國とも都市

世には新政権を無力なりとし、事變の將來に兎角の論議をなす者もあるが、帝國が新政権を絕對に支持すると共に新政権をして思ふ存分その手腕を發揮せしめるならば、やがて噴出した新政権に反省を與ふに到ることを期待するものである。

結語

支那事變の完遂に、果してわが國力が附へ得るや否や、と論議するものがあるが、これは一にわが國民の決意の如何によつて決するといへる。
わが帝國は支那事變のため既に多大の國力を費した。然るに一向生産力の擴充は年一年に増強せられ、事變前の二、三倍に達しつゝあるのを見る時、如何に今日のわが經濟力が偉大になりつゝあるかに驚かざるを得ない。
日支戦争三年に垂んとするに、わが國土は未だ嘗て戦禍を蒙らず、且つ生活必需品の大部に恵まれてゐるため、戦後國民の中には戦時日本を忘れ、第三國人の如き言動

を弄し、かへつて利敵行為をなしつゝあるものがある位である。

われ／＼が確乎として戦ひ抜きつゝある月の原因は何か。正にこれ物語に宣示し給へる今次聖戦の眞義に徹した聖業完遂のため生命を奉じて第一線に活躍する將兵やその家族のあることに考へ及ぶ時、誰か感激しないものがあらうか。

これを要するに、支那事變は當代日本國民に與へられた建國の皇威顯現のたゞの光榮ある「行」である。われ等は一體一心大決心に歸一し、潔齋して「行」に精進する心得を以てこれに當つたならば、如何なる困難も突破し得、偉大なる光明を與へられ、しかもこれを東亞延いては全世界の民族にも惠澤せしめ得ることを知らねばならぬ。

× ×



時間と緑地計画

内務省

緑地の價值(必要不可欠)の變遷

「存在價值」の時代

都市に緑の空地を設けておかねばならないことは、既に前世紀の終り、都市計畫の體系が立ち始めた頃から唱道されてゐたが、當時はどここの國でも、都市が今日ほど大きくはなかつたので、その目的もせい／＼都市の美観とか、市民の權力を表現するたゞとしかいつた程度のものであつた。むしろ時代が進むと、人間は炭酸ガスを吐きだ

し、植物は炭酸ガスを同化して酸素をだす、人間が酸素の多い清淨な空気を吸ふことが保健上緊要であることがわかり、そのために、樹木の多い緑の土地が都市の中に大切なことが認められてきた。當時は主としてこれらの裝飾のためとか、呼吸のためとかから緑地「存在」の必要が論ぜられた。この意味で、その時分を緑地の「存在價值」を認識した時代であるといつてゐる。

「利用價值」の時代

産業革命を受けついで、今世紀に入り、各國とも都市

の躍進に伴つて都市周辺の土地は物凄く勢ひで一途に宅地化し、都市と自然界との距離が激しくなつた。その結果、反面にいろいろの弊害を醸して来た。従つて緑地問題についても、前に述べた「存在価値」の外に、別の角度からその必要が認識され始めた。教育の上からは植物園や動物園が、都市児童を土に親しませるためには學校農園が、また軍隊生活のために練兵場が、必要となつてきたことは、誰でも知つてゐることであらう。

一方市民の分業化が激しくなり、生活状態が劃一化されて来ると、精神的にも肉體的にも自づから片よつた弊害を伴つてくるので、市民の保健上、運動とか或ひは時には自然界に逃避して、精神肉體の休養を圖る必要が叫ばれるやうになつた。

そして子供の遊戯場、青少年の運動場、靜かに逍遙できるやうな公園、又公園のやうな道路、いはゆる公園道路、時には虚弱児童のための臨海、林間學校などのやうな、自然界に包まれた廣い緑地を持つ施設まで計畫されるやうになつた。ドイツなどでは、市内の密住生活者

が、保健の上から、土曜日とか日曜日にでかけて菜園生活ができるやうな、俗にいふ市民農園などの施設を大掛りに市營などでやるやうになつた。これは最近では食糧の自給自足といふ目的をもつて行はれてゐる。

機械による生産が著るしくなると自づと餘暇時間が次第に多くなる。この餘暇時間を善用しないと、飛んでもない社會悪を來す。「自然界を友とするのが、あらゆる意味からいつても、餘暇時間の最もよき善用である」といはれる。この認識に立つのはアメリカであつて、アメリカではこの意味での緑地の増設が盛んとなつた。

こゝに述べた緑地は、所謂いづれも、市民が出かけて行つてこれを利用して始めて効果が擧るものであるから、これを緑地の「利用価値」と名づける。十數年前までの各國の都市計畫界は、擧げて、利用緑地の意味でその確保の計畫を立てたのである。

新存在價值時代

しかるに時代が進んでも都市が擴張し、それに對する

政策が放任主義であると、都市はとめ度もなく膨脹する。この現象は殊に大都市に見られるところである。現に



わが國なども、大正九年の國勢調査以後、農村人口と都市人口の比率がだんだんに變り、都市人口の比率が漸増して来た。しかし地方の中小都市の人口比率は前とは大差ないのであつて、増加人口は主として大都市に集つてゐるのである。この事は、各國とも共通の事實であり、かやうに特に大都市が膨脹すると、これに伴ふ施設の充實はなかく人口の増加と併行して

進み難くなつて来る。

卑近な例をあげると、最初かうまで擴張すると考へないで、市内の道路幅員などを決めると、交通量が大きくなると、折角ある建物を毀してまで之を擴張せねばならぬといふやうな現象を起し、物資に勞力に餘分のものを必要とし、なかく人口増加に應じ切れなくなる。その結果は、こゝに幾多の政治上、經濟上、社會上の重要問題が矢繼早に山積して来る。國によつてはこの域に至つた都市を過大都市と稱し、何とか防遏せねばならぬといふ意見も擡頭して来た。

いまわが國で、充分の資料を備へず、直ちに是非を論斷するのは甚だ行過ぎるわけであるから、こゝには見角を論じないが、國によつては、人口政策、高度の生産力擴充、廣義國防、國土計畫などの立脚點から、その弊害を認識したものもあり、今から約十五年前オランダのアムステルダム市に開催された國際都市計畫會議で、各國の都市計畫家が集り、この過大都市防止に關する一つの決議を作つた。それは左の七箇條から成つ

てゐる。

一九二四年アムステルダムに於ける

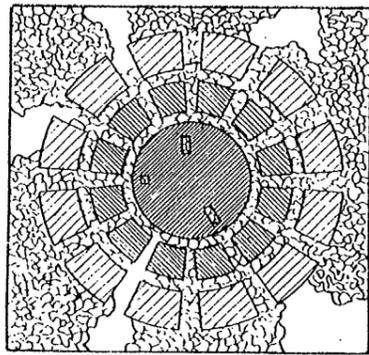
國際都市計畫會議決議事項

- 一、都市の無限な膨脹は望ましくない。過大都市に於ける現状に鑑み、今後の都市の發展に對し警戒せねばならぬ。
- 二、衛星都市を設けて分散させることは、多くの場合過大都市の發生を防止する一方法である。
- 三、家屋が無限に連続し膨脹するのを防止するために、大都市は永久に農事、園藝、牧畜等の用途に定められた緑地帯を以て圍繞されることが望ましい。
- 四、交通、殊に自動車及び乗合自動車交通の急激なる發達状況よりして、今後は局部的な相互的たることを問はず、交通問題に對して一層の注意を拂はねばならぬ。
- 五、大都市が相接近して存在する場合にして、その周圍に多數の小都市が存在するときは、その大都市の周圍

を包含する地方計畫を立てることが特に必要である。而してこの地方計畫は單純なる擴張計畫ではなく、むしろ全區域に互つて連續的に開發されることを豫防するやうな計畫でなくてはならぬ。

- 六、地方計畫は伸縮性のあるものとし、事情に應じて隨時に變更し得るものとする。但しこの變更は公益上必要あるものに限り行はるべきものである。
 - 七、開發計畫及び地方計畫は、その計畫が效力のある限り、一定の目的を有する地域として定められたる土地は必ずその用途に供せらるるやうに、確保し得る権限を法律に依つて附與されねばならぬ。
- 今その第三項を見ると、今までは別途な緑地の存在價值が強調されてゐる。しかもその用途なり、所有關係に於ても、前の緑地とは頗る異つたものが登場して来た。
- 前述の「存在價值」なり「利用價值」なりに見る緑地は、概して公共性のもので一般市民が直接享受し又は利用するものであるが、こゝに述べる存在價值のもの

は、公園のやうな公共用は勿論、公用例へば、農事試験場などでも、又は個人有でも差支へない。たゞ緑地はゆる空地が存在すれば、それだけで過大都市防止といふ大課題解決の一助となる効果があるといふ認識である。



理想型都市緑地計畫
放射狀狀久遠地帯に依り舊市近
郊外と國境をなす

それで、その理想型としては、第一圖のやうに、今後永久に存在する緑地によつて大都市自體が遮斷されると同時に、都市の部分、例へば近郊なり、外郊なりが、それ相應の區分をなし、その何れもが緑地で遮斷され、且

つ各部分にそれ／＼有機的機能を齎らさうとする計畫である。

このやうな計畫となると、たゞ單に一都市だけを考へただけでは實現は容易でない。或る一つの大都市に集中するのを放任すると、何としても、その附近地だけが、宅地化の思惑から地價が昂騰する。さりとて全部が全部を買収するのは容易でない。個人の農地を存在させるためには、權利制限でもしなければならぬのであつて、そこに社會上非常な無理を起しやうい。地方に都市が分散し、大都市の附近だけの地價が昂騰しないやうにでもならない限り、即ち多少の制限をして、自づと無理でないやうに誘導しない限り、實現はな／＼困難なのである。そんなわけでこの「存在價值」の緑地計畫を實現するために、そのためばかりではないが——前述の決議中の、主として第四項から第七項までに述べてゐるいはゆる地方計畫を立てなければならぬのである。

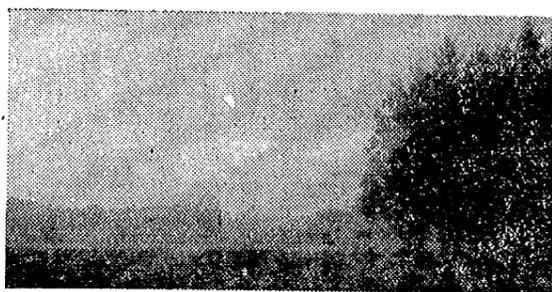
即ち相當の廣面積に互る一連帯の地方の計畫、例へば、わが國でなら關東地方とか東北地方とか、大局から見

直して、まづその地方に発生すべき都市の限界をも大體窺知する計畫を立て、しかる後始めて都市の内容を計畫する。かくして始めて無理なく、私人有の農業地域をも含む徹底した理想型の緑地計畫が立つ、といふことを示唆したものである。

このやうに國により、或ひは時代により緑地計畫の概念を異にしてゐるのである。ドイツのベルリン、或ひはソ聯のモスクワの緑地計畫はほぼ理想型に準據し、都市面積の半分近くを將來永久緑地として保存させる計畫で、これがまた都市の人口を制限し得る理由の一つになつてゐる。殊にドイツの都市では、都市民に不斷に農民の空氣を注入する必要があるといふので、都市の緑地計畫中に世襲農地を混在させるなど、國情を異にするに従ひ、緑地計畫その物の内容もさまざまである。

時局下の緑地計畫

さてわが國の緑地計畫についてであるが、遠く平城京(奈良の都)構成の昔を偲べば、その都市計畫たるや



「防火・防護都市の建設」ともなつたものであつた。しかるに近代産業の急激な發展のため殊に大都市では、古來わが國で見ない

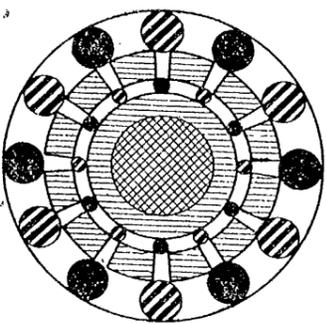
わが國の緑地の例

各自の家庭が廣い庭園で圍はれ、今日いふ公共緑地計畫はなくとも、居ながらにして自然を相手とし精神生活も豊富となり、肉體保健の上からも萬全といふ策が施されてゐたのである。時の進むにつれ、或ひは神社・佛閣のやうに廣い緑地を持つものが、都市の四周又は適所に配置され、これが自然と今日いふ「大都市の遮断」にも、また

過密な生活を餘儀なくされてきた。

由來日本ほど自然に恵まれた處はなく、幾千年を通じ、わが國民ほど自然と融合し、精神上、肉體上自然界と切つても切れぬ關係にあつたものはない。少しの自然味もない都市生活は、わが國民性と合致しないものであることは、段々と識者にも認められるやうになつてきた。又過去幾十年の災害記録を見ても、都市に甚だしいものがあり、火災に水害にしばしば著例がある。その原因を尋ねてみると長い傳習から家屋が木造であつて、これが漫然と立ち並んで大都市をなしたのが主要な原因の一つであつた。國際情勢の複雑化に伴ひ、防空問題が眞剣に検討されるやうになつた今日、この都市の様態では懷然たらざるを得ない。防空の目的のためには、家屋の構造を耐震、耐火、耐爆構造にすること、過密を整理し、都市を疎にすることも勿論必要であるが、萬一の場合の避難のために、或ひは防火のために、都市を緑地で遮断し、さらし……といふことは、誰れしもの頭に直覺的に浮ぶ着想である。この考へは次いで思案となつた。更に

積極的には聽音機を雑音の交らぬ静寂なところに据附ける必要があることや、その他種々の工作の上から、即ち特に防空上の見地のみから緑地に對する關心を呼んだのであつた。防空なくして國土の護りなしといふことが



- 第一期綠地事業地
- 第二期綠地事業地
- 第三期、理想型を目指す綠地事業地
- 舊市内
- 市街地

一般に確信されるに至つて、こゝに都市の緑地計畫が、忽然と浮び上つて來たのである。勿論、わが國の都市計畫中の緑地計畫は、防空對策のためのみではない。各國とも、いづれ劣らず體位向上の立場から、自然科學研究の見地から、生産擴充の

論議から、その必要性を認識し、計畫を立ててゐるのである。しかしわが國で、特に防空問題からして緑地計畫の意義が重視されて來たのは、前述の通りわが國の都市の特異性から來てゐるのである。政府が昭和十四年度來都市緑地保存のために特に國庫補助金を支出し、公共團體として緑地の新設保持を爲さしめるのもこのためである。しかも、その事業たるや、物資を要せず、しかも整地、植樹のやうに簡易な工事は、體操訓練の上からも青少年の勤勞奉仕作業として最も適當してゐるなど、正に時局に即應したものと云ふことができる。

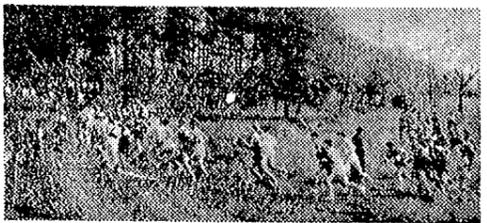
「緑地」の意義と計畫の範圍

これまで「緑地」といふ言葉を漫然と用ひたが、これは未だ法制上の熟語でもなく、勿論未だ辭書などにも出てゐない。略半公式ながらも行政實例的に用ひられた始めは、内務次官を會長とし、大東京の將來計畫を樹立しつつある都市計畫東京地方委員會内に、昭和七年十月以來設けられた東京緑地計畫協議會に於てであつた。同協議

會は内務省その他關係各省を始め、都市計畫東京地方委員會、東京府、東京市、並びに神奈川、埼玉、千葉各縣の關係職員を以て組織され、その目的は、帝都の都市計畫の完璧を期するため、その一部たる緑地の計畫をば、前述のいろ／＼な立場から協議立案することにあつた。同協議會に於て眞つ先に採り上げられた問題は、緑地とは何ぞやといふことであつた。申合せの結果「緑地とは其の本來の目的が空地にして宅地商工業用地及頻繁なる交通用地の如く建築せられざる永續的のものを謂ふ」と定義された。

こゝで一、二の問題を簡略に述べるが、先づ都市内外に現實に存在する緑地は、俗にいふ緑地ではあるが、必ずしも前記協議會でいふ「緑地」ではないのである。協議會でいふ「緑地」は永續的のものをいふので、明日にも宅地となる田畑の如きを緑地とはいはない。永久に残る緑地のみを「緑地」といひ、しかして永久に保存する又は保存すべき緑地を計畫するのを「緑地計畫」、それを實現するのを「緑地事業」と稱するのである。

協議會の申し合せでは、一應原則として宅地を除いたが、緑地計畫の範圍としては公私兩餘地を併せ考へる意圖はあるのである。都市の過密生活その他諸々の弊害を除去するために、宅地内に保留すべき私有、私用の空地の多寡は、他の公用緑地計畫の多寡と相關關係に立つものであるから、緑地計畫の課題としては勿論、庭園とか菜園等の空地の多い住宅計畫地も脱み合せて協議することとなつたのであるが、適切な用法がなかつたので、定義の上からは



緑地利用の例

宅地内の空地問題を全然除外したものらしい。たゞ目下のところ主として緑地計畫の範圍と考へてゐるのは、公共施設若しくは公用財産たるべきものの緑地

計畫と、永久に残すべき農林業地域についての研究である。但しこの最後の農林業地域とは、原則として農林業用途以外にその利用を認めぬものをいふのであるから、前述したやうに、大都市問題の是非、地方計畫制度の是非如何によつて、始めて採り上げ得る性質である。従つて今暫くは研究の域を脱しない。よつて今日いふ緑地計畫とは、主として時局に際し防空に重點を置き、都市計畫を中心とする公共緑地並びに公用緑地の一貫せる系統を確立するにあるのである。

しかして公共緑地實現の嚆は、平時週日は青少年の訓練、兒童遊樂場に、週末は一般市民の運動休養、夏期には都市兒童の自然生活に供用せられるのは勿論である。今は東京に於ける例がすでに他の大都市にも波及しつつあるのである。

緑地政策

以上概説したやうに、わが國獨自の立場からいつても各都市とも、その根本計畫としては、放射狀、環狀の

永久緑地を以つて圍繞するのは最も望ましいことであるが、この非常時局に際し、他に幾多残された重要問題が山積しつゝある折から、國庫並びに地方財政の見地からいつても今速に理想を實現し得るものでない。緑地計畫もこゝに漸進主義を採り、第一次としては特に危険と認められる大都市で事業に着手し、しかも三ヶ年で第一期とし、都市の内外に適當な間隔を選び、先づ緑地を散在的に實現せしめることとなり、十四年度から事業に着手した。こゝに帝都復興事業、函館復興事業以來再び始めて緑地事業に國庫から補助金を交付されることとなり、地方公共團體に於てこれが略千三百萬圓に達する事業として運営され、目下大都市で着々進行中である。正にわが國都市計畫界に於て劃期的の緑地事業が芽生えたわけである。

都市計畫法には、緑地買収のための特別税、受益者負擔制度の如き財政政策は具備してゐるが、緑地計畫充實のために、必要と認められる緑地買収準備金制度、緑地のための土地收用の問題、或ひは緑地として決定した土

地の權利制限の是非等の諸問題などは、今後に残された課題といふべきである。

TOKYO GAZETTE

CONTENTS

- THE NATIONAL SCHOOL SYSTEM
 - BUDGET ESTIMATES FOR THE 1940-41 FISCAL YEAR
 - THE 75TH SESSION OF THE IMPERIAL DIET
 - DOCUMENTS CONCERNING THE ASAMA MARU CASE
 - THE SITUATION IN CHINA
 - 1, Results of the Military Operations in the 12 months following the fall of Hankow
 - 2, Activities of the Imperial Naval Air Force
- March, 1940

週報の東京ガゼット三月號

- 普及版 一部買取約定版
- 一年契約 三冊三十錢(送料別)
- 半年契約 一冊八十錢(送料別)
- 普及版特別定額(高等專門學校、大學の圖書室に七冊)
- 甲、三十部以下 一冊二十錢(送料別)
- 乙、三十部以上 一冊十七錢(送料別)
- 上記定額 一年 九十五錢(送料別)
- ◇申込所 東京市麹町區永田町二丁目一番地 内閣情報部分室内 東京ガゼット發行所

支那事變貯蓄債券の使命

いま日本勸業銀行で第十六回支那事變貯蓄債券の賣出を行つてゐるが、今回は本年に於ける最初の發行であり、しかも光輝ある紀元二千六百年を記念するための意義深い記念債券であるために、その様式も従來と異り、高尚優雅な新様式と改め、その上發行條件も従來の貯蓄債券に比して割増金及び中途償還割合が非常に多く好條件とした。賣出期間は三月五日より同月二十六日までであり、一枚の額面金額十五圓のものを十圓で賣出してゐるのである。發行總額は五千二百五十萬圓、その賣上金は三千五百萬圓となる。

抽籤は毎年六月と十二月の二回に行はれるのであつて、割増金は一等が千五百圓、二等が百圓、三等が十圓となつてゐる。債券の第一回抽籤は本年の六月に行はれるのであつて、當籤本数は一等が百五十本、二等が三百五十本、三等が一萬三千五百四十五本の多きに達してゐる。第二回以降の抽籤に於いても、その當籤本数は従來の分には比し遙かに多くなつて居り、しかも従來は「ナキ分」として割増金の附かない當籤が相當にあつたのであるが、今回は「ナキ分」は全然なく、最終償還以外の當籤分には全部割増金が附くのであつて、この點從來の分に比し異つた妙味があると言へる。

この支那事變貯蓄債券は、臨時資金調整法の規定に基づき日本勸業銀行が政府の命を受けて發行してゐるが、昭和十二年十二月

第一回の賣出以來回を重ねること九度に及び、その賣上金も一億四千萬圓に達し、今回の分の賣上金三千五百萬圓を合すれば二億七千五百萬圓(額面金額四億一千二百五十萬圓)に達するのである。この賣上金は全部日本勸業銀行から大藏省預金部に預入され、大藏省預金部ではこれを以て直ちに國債の消化に充當してゐるのである。

經濟戰と貯蓄の必要

現代の戰爭は武力戰であると同時に經濟戰であつて、非常に多くの物資と資金とを要することは既に周知の通りである。今次事變に於ける戰費は、本年三月末迄に百十九億八千萬圓といふ巨額の軍事費が決定されてをり、昭和十五年年度豫算に於ても臨時軍事費四十四億六千萬圓を計上してゐるのであつて、之を合すれば百六十四億四千萬圓となり、日清戰爭の戰費一億七千八百餘萬圓に比すればその九十二倍、日露戰爭の戰費

十五億圓に比するときはその十倍となつてをり、しかも今後の情勢如何によつては尙ほ相当多額の軍費が計上されるものと懸念しなければならぬのであつて、これを以てみて近代戦が如何に經濟戦であるかが解るのである。更に事變處理、大陸開發の爲めには大いに生産力の擴充を圖らなければならぬのである。これ等に要する多額の資金は、國民が自らの努力により蓄積せなければならぬのであるから、我々國民はこの大いなる事業達成の爲めには全部が眞に一心一丸となつて、盡忠報國の念に燃え立ち、資金の蓄積、物資の節儉、銃後經濟の強化確保に邁進しなければならぬ。

更に今開會の中帝國議會に於て、現下經濟界の最も重要な問題として惡性インフレーションの防止が盛んに論議されてゐるのであるが、これが對策としては物資並びに物價方面に於ける適切な措置は勿論のこと、國民經濟の基礎をなす通貨の事態に即應した調整は緊切に欠くべからざる根本的のものでなければならぬ。従つてこれに對する問題として國民購買力の規正といふことが必須要件となつて來たのであつて、これが爲め貯蓄債券の使命も更に重且つ大となつて來るのである。

外國の貯蓄債券の概況

戰時に於ける國內散佈資金の吸收策については、獨り我が國のみならず、世界各國に於て銳意努力してゐるのであつて、前回の歐洲大戰に於ける交戦各國の戰時財政經濟政策をみると、各國とも貯蓄債券の如きものを發行して以て資金の吸收をなし、併せて貯蓄獎勵に努力したのである。即ちイギリスに於ては「戰時貯蓄證券」なる小額債券を發行してをり、アメリカも同様に「戰時貯蓄證券」とか「大藏省貯蓄證券」或ひは又貯蓄切手等を發行してゐるのである。カナ

ダに於ても同じく「戰時貯蓄證券」を發行し、フランスでは「國防證券」を發行したのである。ドイツは別に貯蓄債券或ひは小額國債なるものは發行しなかつたのであるが、その代り事務員及び労働者等に前貸して「戰時公債」を購買させたのである。これ等は何れも好成績を収めたのであつたが、今回の歐洲大戰に於てもイギリスでは「小額國防公債」及び「貯蓄證券」を發行してゐるのである。

日本ではこれが三度目

元來この貯蓄債券については、わが國に於ても既に先例が二回あつて、最初のものは日露戰爭當時に發行された貯蓄債券で總額二千萬圓、次は關東大震災直後に發行された復興貯蓄債券で總額八千四百萬圓である。何れも國家非常の場合に於て戰費又は震災善後經營費として巨額の政府資金が國內に散佈された時に發行されたものであ

る。しかし三回目が今度の支那事變貯蓄債券であり、その發行目的は前二回と同じく零細資金の吸收にあるとはいふまでもないのである。

この支那事變貯蓄債券の發行限度も始めは手取金二億圓までと決定されてゐたのであるが、事變の長期化に伴ひ更に五億圓まで擴張されたので、今後には二億二千五百萬圓の貯蓄債券が發行されることとなり、事變下に於けるこの債券の重要性は一段と加重されたのである。

以上の意味に於て國民が貯蓄債券を購入入することは、即ち貯蓄債券を通じ、戦線に活躍する忠勇なる將兵に對し必要な兵器、彈藥、食糧、衣服等を供給することとなり、居ながらにして國策に協力することとなるのである。又他面その貯蓄に於ても年二回の抽籤を楽しみ、しかも知らず知らずの中に貯蓄するといふ、いはゆる趣味と實益とを兼ねた一石二鳥の貯蓄方法でもある

といへるのである。

今回の發行は建國二千六十年の大業を壽ぎ、千歳一週の喜びを記念すべきものであるのみならず、時恰も子弟の卒業或ひは入學の期に當るので、卒業記念或は入學記念として是非其子弟に一枚づつ御褒め

するわけである。即ち眞心にも貯蓄の意義を教へ、時局の重大さと國の護りの將兵各位に對する感謝とを、無言の中に示唆する生きた材料であると思ふのである。

大藏省預金部資金局

支那事變貯蓄債券賣上高地方別表

北海道	五七、七三三	富山縣	三二、〇六三	鹿兒島縣	一七、〇八〇
青森縣	二七、三三三	石川縣	三二、九七五	沖繩縣	二七、四七五
岩手縣	二二、三三〇	福井縣	一八、九七〇	臺灣	四、七三〇
宮城縣	二七、三三〇	山梨縣	二二、八八五	朝鮮	七、〇〇〇
秋田縣	二二、四〇〇	長野縣	三〇、七〇〇	南洋	四、〇〇〇
山形縣	二二、四〇〇	岐阜縣	三〇、九七五	關東州	四、〇〇〇
福島縣	二八、四〇〇	愛知縣	二七、八〇〇	支那	一、三三三
茨城縣	二九、九七五	三重縣	四八、八七五	蒙	二、九七五
栃木縣	二九、九七五	滋賀縣	三二、四〇〇	支那	一、三三三
群馬縣	二九、九七五	京都府	八七、九七五	計	二二〇、〇〇〇
埼玉縣	三二、四〇〇	大阪府	三二、六九〇		
千葉縣	三二、四〇〇	兵庫縣	三二、四〇〇		
東京府	四六、四七五	奈良縣	一五、九七五		
神奈川縣	二七、八八五	和歌山縣	三〇、〇〇〇		
新潟縣	四〇、〇〇〇				

蔣政權の經濟力

陸軍省情報部

支那事變勃發以來、皇軍は赫々たる戰勝を收めて、北、中支は勿論南支の要域を戡定し、今やこれ等の占領地域には東亞新秩序の理想の下に建設の巨歩が力強く押し進められつつある。一方蔣政權は武漢、廣東喪失以來、一地方政權に墮し去つて、西南及び西北支那に僅かに餘喘を保ちつつあるに過ぎない。にもかゝらず蔣政權は、今なほ長期抗戰を呼號して最後の勝利を夢みてゐるものの如くである。蔣政權は果して彼が案語するやうに、最後の勝算を齎すだけの實力を有してゐるであらうか。その戰鬥力については、既に週報二月二十一日號(第一七五號)に於て述べたので、今度はその經濟力について財政、物資自給力、物資輸入力等の観点からこの問題を検討してみたいと思ふ。

激減した收入と尨大豫算

蔣政權の戰時豫算は民國二十六年(昭和十二年)二十一億元、二十七年(二十四億元)、二十八年(二十八億五千萬)元と年を逐うて膨脹を續けてゐるが、その約七割が戰費に使用されてゐるものと見られる。事變前の平時豫算は十億元であつたから、事變第三年の民國二十八年(戰時豫算)はその二・八倍に躍進したことになる。この膨大せる歳出に對して如何なる財源を以てこれに應じてゐるかは、何等發表されてゐないが、事變前歳入の七割七分を占め七億七千萬に達してゐた關稅、鹽稅、統稅の三大稅收も武漢、廣東喪失以後は僅かに一億元に激減し、その他の稅收及び

收入も同様の減少を來してゐることは疑ふべくもないから、増稅或ひは新稅の創設その他の戰時財政政策により極力收入の増加を圖つてゐるとはいへ、その額は多くも五千萬元を出でまいと見られる。結局三大稅收及びその他の諸收入合せて一億五千萬程度の經常的歳入しか擧げ得ないこととなり、民國二十八年(昭和十四年)に於ては差引約二十七億元は他にその財源を求めなければならぬ。かくして、蔣政權が戰費調達手段としてとり上げたのは公債の發行と紙幣の増發とであつた。

公債消化極めて不良

事變以來蔣政權は總額三十三億四千萬に達する内外債を發行してゐる。即ち民國二十六年に救國公債五億元、二十七年に賑災公債一億元及び國防公債五億元、二十八年には建設及び軍需公債各六億元以上内債合計二十三億元、外債としては民國二十七年に金公債(二億海關金單位、一千萬鎊、五千萬米弗)法幣換算十億四千萬を發行した。これ等の公債の消化成績

は極めて不良なるものの如く、救國公債は僅かに二億元の應募なりといはれ、國防公債も應募額幾々たりと傳へられ、金公債にしても發行一年後なほ強制賣付に腐心してゐると報ぜられてゐる。前記公債の發行條件を見てもおそく發行されたもの程惡化してをり、昨年發行された建設及び軍需の二公債の如きは公券によらず、當初から銀行引受によつてゐることを見ても如何に消化成績が不良であるかが想像できると思ふ。

かくの如き公債の消化成績を以てしては、到底軍費の急需に應じ得ないことは自明の理であつて、勢ひ政府系銀行の強制的引受により窮境を糊塗するより、外に方途がない。これは事變前に於ても國民政府の常套手段であつて、況んや戰時非常時期に於ては當然に採用さるべき手段であつた。今後蔣政權が抗戰を繼續するための所要戰費は依然としてその殆んど全部を公債の發行に俟たなければならぬが、結局政府系銀行の背負込みとなり、その結果は通貨の大膨脹を來すべく、延いては法幣の前途に一大暗影を投ずるものと見られる。

法幣の發行高とその前途



法幣の發行高に關し蔣政權の發表によれば、民國二十八年末に於ては三十億八千萬元にして、事變當初に比し二倍以上に達してゐる。特に政府機關たる中央銀行の發行高の激増が中國、交通、農民の三銀行の増加高に比して著るしく注目をひく。これは戦費調達のため通貨の増發に中央銀行が最も利用され易い結果であることは想像に難くない。法幣の發行高三十億といふ蔣政權の發表は、遽かに信ぜられぬ所

で、公債の消化成績、爲替相場の高騰に鑑みる時は、實際の發行高はこれより遙かに巨額に達してゐることは疑ひを容れる餘地がない。

支那金融財政評論家イー・カーンは五十億と推定し、又一説には六十億以上と唱へられてゐるが、概ね真相に近いものと見られる。かくして法幣は既にインフレの様相を呈しつつある。

法幣の前途に關してはイー・カーンのやうに一部樂觀論を唱へる者もあるが、一般の見るやうに、政治的經濟的に幾多の弱材料を内包してゐるから、低落傾向を辿るものと見るのが至當であらう。

自給自足經濟は可能か

蔣政權は支那本部の約半部——この地域は支那が物博を誇つた中原の地であつて、農産、畜産、鑛産、水産等の重要資源と近代工業は擧げてこれに屬してゐる——を喪失し、財政、金融、産業のあらゆる部門に於ける經濟活動が都會支那乃至海岸支那から隔絶され、従つて對外貿

易を遮断され、殘された西北及び西南支那に於て極端な自給自足經濟、原始經濟への逆轉を餘儀なくされつゝある。かゝる地域に於ける蔣政權は、自力克く長期抗戰を繼續し得るであらうか。

食糧資源に於てすら自給自足にはかなりの距離があり、工業原料資源の主なものとしては棉花、桐油の外石炭と特殊鑛物の埋藏量は相當豊富であるが、これを利用してべき工業力を持つてゐないことが一大缺陷である。タングステン、アンチモニーなどは世界産額の大部分を占めてゐるが、鐵は僅かに二萬噸の生産に過ぎず、石炭は殆んど開發されておらず、陝西及び四川の石油も未知數であり、電力も亦極めて貧弱である。

蔣政權は奥地に自給自足經濟を確立すべく經濟開發計畫、特に甚大なる工業建設計畫を樹立して懸命の努力を拂ひつゝあるも、資金の缺乏、建設資材の供給難、原料の供給難等に加ふるに、運輸交通の不便に累ひされてその成果は殆んど見るべきものがない。現に着手以來一年有餘を経てもなほ奥地移轉工場の操業してゐるもの百五十、建設中

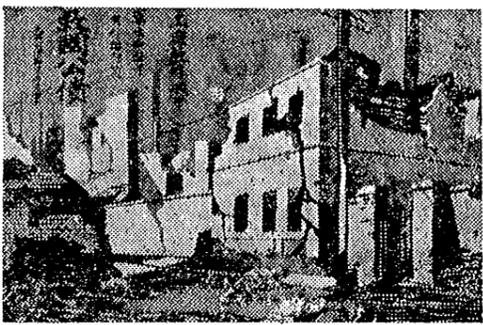
の工場十數工場に過ぎない狀況である。

要するに蔣政權は、たとへ奥地經濟建設が完遂しても——數年の日子を要するであらう——なほ自給自足による抗戰の如きは到底不可能であると思はれる。殊に軍需工業に於て然りである。況んやその成果には大なる疑問を抱かざるを得ない現況に於てをやである。果して然らば、蔣政權は今後と雖も依然第三國依存によつてのみ、漸く抗戰を續け得るものといふべきである。

蔣政權の物資輸入力

蔣政權は事變以來二ヶ年間に約十九億五千萬元に達する軍需資材の輸入力を有したものと推定し得る。この金額は事變前後に互り對米輸出銀の賣却代金及び事變後、英、米、佛、白、ソ等より得たと傳へられる借款又はクレディットの合計額に概ね相當する。この十九億五千萬元の輸入力は抗日戰のために消費せられる軍需資材量から判斷して最近殆んど涸渇に瀕してゐるものと見られる。

而して今後に於ける蔣政權の物資輸入力は輸出の増加、



しかも敗戦に敗戦を重ねつゝあるにかゝらず、今なほ抗戦を繼續してゐるのは、第三國の財的並びに物的援助に負ふところが少くないのであつて、内部的抗戦力が著るしく低下してゐる現在、及び將來に於て抗戦の能否は一に第三國支援の程度如何に懸つてゐるといつても過言でない。蔣政權が最近對外借款の獲得に狂奔しあることはよくその間の消息を裏書してゐるといひ得る。

昨年下半年以來對佛二千萬法、對ソ一百萬磅、對英三百萬磅、對米一千萬弗(三千萬弗又は七千萬弗とも言はれる)、或ひは對佛川漢鐵道建設四億八千萬法借款等々が交渉中なりと放送され

金銀の輸出、華僑の送金、法幣發行準備在外正貨の流用及び對外借款の獲得等の手段を擧げ得るが、桐油、特殊礦物等の生産を急速に増大することは望み難く、従つて輸出増加による外貨の獲得はあまり期待し得ない。金銀の輸出も昨年度の實績に徴しその輸出源は既に涸竭しあるものといふべく、法幣發行準備金は既に二億元内外に減少しあるもの如く、これをして流用するが如きは最後の手段であつて、いくら蔣政權であつてもかゝる危険を犯すものとは思はれず、華僑の送金は最盛時には年額六億元に達したと報せられてゐるが、厦門、汕頭、廣東、海南島等の華僑主要出身地攻略後はその送金が蔣政權に寄與するところが著るしく減退したと思はれる。かく觀じ來れば、蔣政權は今後自力を以て物資輸入力を調達すること困難であつて、結局第三國からの借款に期待する以外打開の途がないといひ得る。

第三國の援蔣借款供與

蔣政權が財的に將又經濟的に幾多の脆弱性を有し、

てゐるが、その實現には相當の難關があるものといはざるを得ない。蓋し歐洲戰爭の勃發、政治的利權の提、供困難等の事情は列國の對支財的乃至物的援助を消極的ならしめるであらう。たゞ輸出物資を代償とする借款の供與が成立の可能性ありと認め得るのみである(最近對米一千萬弗借款が、錫又は桐油を擔保として成立を傳へられた)。

然し蔣政權の輸出ルートが僅かに滇越鐵道、滇緬ルートその他に局限され、しかもその輸送力にも限度がある上に我が空軍の脅威下に於ては輸出の増加も容易でないと見られるから、輸出物資を代償とする借款の獲得乃至クレディットの設定にも亦多くを期待し得ないものと思はれる。

崩壞の一途を辿る蔣財政

これを要するに、蔣政權は財政的には既に行詰りの状態であつて、物資の缺乏と物價の暴騰とは民衆生活を極度に窮迫せしめ、悪性インフレーションの進行と相俟つて經濟的崩壞過程への移行を餘儀なくせしめられつゝある。しかも西南

經濟開發の成否にかゝらず物資の自給自足は望むべくもなく、輸入力は殆んど涸竭に瀕してゐるに反し、第三國の財的乃至物的援助も亦殆んど期待し得ない現況に於ては、蔣政權の經濟的抗戦力は著るしく低下せるものといひ得る。

然しながらこれを以て蔣政權が經濟的に近く崩壞するものと速斷することはもとより不可である。支那經濟の有する半封建的特質は或る程度の持久に耐へしむるのみならず、悪性インフレーションをも敢へて耐へざるに於ては對内的戰費の調達はなほ可能であり、又既に遞減傾向にありとはいへ、今なほ西南及び西北ルートを通じ軍需品の輸入を見つゝあり、加ふるに將來第三國の財的乃至物的援助も亦絶無とは斷じ得ない以上、今後なほ消極的ながらも抗戦の繼續を可能ならしむるであらう。

従つて蔣政權に對しては一方その戰闘力を破砕すると共に、他方政治的に經濟的にあらゆる施策を併用してその經濟力を潰滅に導き、以て本事變處理の促進を圖らなければならぬことはいふまでもない。

歐洲戰爭の 宣傳戰點描

歐洲に第二次の大動亂が勃

發して以來、既に半年、戰爭は近代戰の特徴である總力戰の特質を發揮して、宣傳戰、思想戰、經濟戰が、火華を散らして戦はれてゐる。武力戰より、むしろ宣傳戰の觀をさへ呈し、ジークフリート、マジノの兩線に兵力を増強すると共に無形の要塞線である宣傳機構を強化、文明の最新鋭の武器である通信、寫眞、映畫、ラヂオ等を總動員して、華かな宣傳戰や思想戰略が、展開されてゐるのであ

る。

戰時の宣傳戰は、自國民の國民精神の昂揚と、敵國の民心墮落、中立國の同情獲得の三つの面を持つてゐるが、開戰當時の宣傳戰の目標は、戰爭勃發の責任を敵國に轉嫁するとともに、戰爭の目標を闡明することにあつた。

ドイツ側は昭和十四年八月三十一日夜、D.N.B.通信社を通じて、いはゆる對波十六ヶ條の提案を發表、「ドイツは和平を希望する」旨を世界に印象づけようと試みたので

あつた。翌九月一日、ポーランドへの進軍命令を發したヒトラー總統は臨時國會を召集し、「ドイツは和平を希望したが、英佛がこれを拒んだ。もはやドイツは自己の力で問題を解決すべき時に至つた」と獅子吼、この演説を全世界に放送したのである。

續いてヒトラーのナチス黨に對する布告(九月三日)、ゲッベルス宣傳相の演説(九月)、ダンテヒに於けるヒトラーの演説(九月九日)等を矢継ぎ早に放送、ドイツは歐洲の安定平和の美名の下にドイツを包圍せんとする英獨に、あくまで對抗する。我々はドイツ民族の生命のために戦ふのだ」と

戰爭の責任は英國にありとし、戰爭の目標を明らかにした。

これに對して英佛側も英國皇帝の御放送をはじめ、九月一日夜のチェンバレン首相の議會演説や全英帝國放送によつて開戰の決意を明らかにし、次いでダラディエ佛首相が議會に於て、英國の決意を支持する旨を述べ、フランスの決意を明らかにした。イギリスでは更に一步進んでチェンバレンはドイツ語で放送して直接ドイツ國民に呼びかけた。かくて電波が宣傳戰の最も有力な武器として登場して來たことは、今次歐洲戰爭に於て特筆すべきことで

ある。

宣傳戰の手段としては、前大戰でも盛んに用ひられた「紙の爆彈」も勿論利用されてゐる。戰爭開始と同時に「宣傳空襲」によつて空中から投下された「紙の爆彈」は恐らく何千萬枚に達するであらう。

ドイツの對敵宣傳は、銃先を英國に向け、チェンバレン閣のボスターを使用するなど激烈を極めてゐるに反し、フランスに對しては寧ろ攻撃を控へ目にし、英佛の離間を圖つてゐる。

英佛側の對獨宣傳は、ドイツ國民とナチスの離反に主力を注いでゐる。この民主主義

對全體主義の反ナチス思想

戰は開戰前から深刻に戦はれてゐたのである。既に開戰前から、英人キング・ホールが正確な情報と交換といふ名目で、手紙の形でドイツ國內に向け發送してゐたキング・ホール通信の數も數十萬に達するといはれる。

中立國に對する交戰國の宣傳は、戰爭の責任を相手國に歸し、自己の力、武力、經濟力等を誇示して、中立國を自己の陣營に引き入れるやうに努力するにある。少くとも敵

方に廻さぬことが必要であるから、自國に同情を求めたため、あらゆる事件が宣傳の對

象となつてゐるのである。例

へば英船アセニア號や、照國丸擧沈没事件をめぐつて英獨間に盛んに宣傳戰が行はれたのである。

英獨の宣傳戰を技術的に見れば、ニュース映畫、寫眞等ではドイツが壓倒的に勝利を占めたといへるだらう。開戰後一週間、中立國の新聞、雜誌はドイツ側の寫眞と通信で埋められたほどだつた。これは英佛側の檢閲が嚴重を極めた結果で、英佛もそれに氣がついて後には檢閲の手をゆるめた。

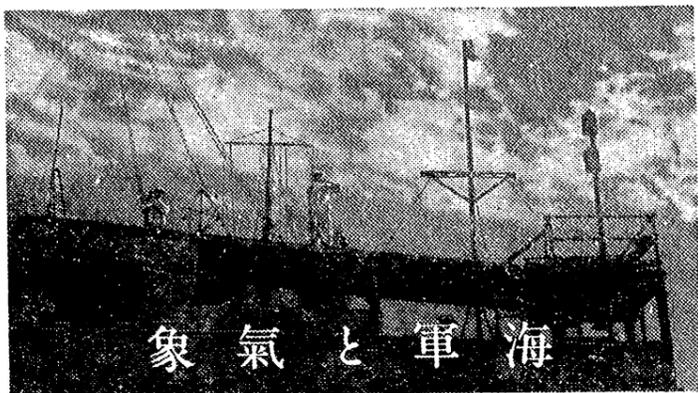
宣傳には心理作用が最も重要であるが、この點では英國の方が巧妙である。宣傳は先

づそれを信用さすことが根本

的な要件なので、英國は前大戰の經驗に鑑みて、秘密主義を捨て、自國の損害なども出来るだけ發表して、「英國側のニュースは確實」との印象を與へるのに努めてゐる。

たナチスとドイツ國民の離間工作は、ドイツ國民の強固な思想的團結の前に齒が立たない、といった形である。國家の興亡に思想の力、國民精神の強弱が、いかに大きな役割をもつかが、こゝにも明らかとなつてゐる。

—内閣情報部—



象氣と軍海

「變化極りない 氣象現象」

氣象現象は實に千變萬化であり、天體の運行のやうに其の變化の法則が確實に知られてゐない。従つて其の豫測が適確にゆかない。しかし元來氣象現象は自然現象であるから、そこには必ず何等かの法則があり、この法則さへ明らかになれば豫測も確實になるわけである。

温などは概括的には緯度の高い地方が低く、赤道附近が高く、冬に低く、夏に高い。又陸地では冬季は海上より甚だしく低く、夏季は逆に甚だしく高い。更に各地について見ても、時刻的の變化が比較的規則正しく現はれてゐる。

低氣壓なども大體に於て其の通路は定つてゐる。南洋方面に發生する颶風は、略、西北西に進んでフィリピン方面を横切り大陸に進出するもの、略、北西に進み臺灣南西諸島を横断して支那大陸に入るもの、又發生地より略、北西に進み北緯二〇乃至三〇度、東經一二〇乃至一三〇度の海面に於て北東に轉向し日本附近を通過するものが多く、その季節も大體に於て定つてゐる。例へば本土

附近に來襲するものは六月から九月に多い。

霧は陸上にも海上にも發生するが、支那沿岸から沿海洲沿岸に互り發生するもの、及びオホーツク海千島及びアリューシャン列島方面に發生するものは特に顯著であつて、前者は一月から八月頃、後者は五月から八月頃が發生時期である。陸上に於けるものも亦大體季節的に、また時刻的に定つたものがある。なほ晴曇、降雨、風及び湿度等にも、それぞれ季節的にまた地方的に特徴が現はれてゐる。

これらの事實から推して考へると何等か法則でもあるかのやうに思はれる。然し個々の現象について調べると、その變化は極めて複雑であつ

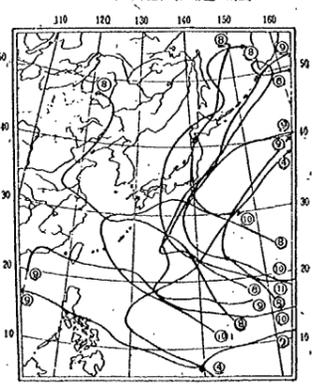
て、その間の一定不變の法則は明らかでない。天氣豫報が百發百中の域に達せぬのも實にこの爲めである。しかし先に述べたやうに自然現象には、人爲的のものやうに時に應じ場所により機宜異なるものがない。従つて複雑多岐な中にも或る定つた法則があるに相違ない。これは將來研究の進むにつれて次第に明瞭になると信ずる。

「氣象の應用」

では、この變化極りなく、しかも其の法則が確實に知られてゐない氣象現象を、現在産業上乃至は軍事上いかに利用しつゝあるか。氣象學の應用的

方面には農業氣象學、衛生氣象學、航空氣象學、海上氣象學等いろいろの部門がある。又軍事上の必要に基づき、研究調査を要するいはゆる兵要氣象學もある。勿論これ等の應用氣象學は相關聯したもので密接な關係を持つものである。こゝには海上氣象學、航空氣象學及び兵要氣象學の内、氣象をいかに利用し又警戒しつゝあるかの一部分を簡単に説明することとする。

昭和13年顯著颶風進路圖



(數字は月を示し、矢印は消滅又は消失を示す。)

一 艦船と氣象

船の推進力に帆を用いた時代に、風を如何に利用したかはこゝに述べるまでもない。軍船が敵の風上側に位置を占め有利な襲撃態勢を得ようと努力したこと、或ひは焚燒舟戦法（相手の船を火攻にする戦法）に風が重要な役割を演じたこと等は史實に明らかである。

その後艦船の推進力に機力が用ひられ、船體も次第に増大するにつれて耐波性も亦著るしく良好となつたけれども、なほ猛烈な荒天怒濤に遭遇するときは巨大な船船であつても木の葉の如く翻弄され、航行意の如くならず、損傷を被ることが稀でない。また濃霧のため咫尺を辨

ぜぬ結果、衝突、坐礁の事故を起すこともある。故に乗員が氣象現象に對し如何に敏感であり眞剣であるかは、陸上の人の思ひも及ばぬものがある。

艦船で低氣壓や霧の發生、來襲を豫知するには、氣象臺から放送される氣象實況を受信し、氣象臺や測候所などで行つてゐると同一要領によつて天氣圖を描き、これに基づいて豫察を行つてゐる。

各地の測候所や航海中の艦船などでは、毎日午前六時、正午及び午後六時の三回（必要に應じなほ數回行ふ）各所在地に於ける氣壓、風向、風力、天氣、氣溫、雲等を觀測し、直ちにこれを有線又は無線電信によつて氣象臺に通報し、氣象臺はそのう

ち適當な箇所のものを選び、これに低氣壓と高氣壓等の位置を加へ直ちにそれを放送する。この氣象臺から放送するものを氣象實況報といふ。

天氣圖によつて猛烈な低氣壓の位置、進行方向、及び速度が分り、そのまま進めば低氣壓に遭遇することが明らかなる場合には、船は保安上の見地から低氣壓を遠ざかるやうに針路を變更する。若し回避する餘裕のない場合には直ちに荒天準備を整へ、荒天怒濤に遭遇しても損傷を被らぬやうに方法を講ずる。

一般に低氣壓圏内は非常に時化てゐるが、各所とも同様の荒天とは限らない。殊に颶風の場合に著るしく昔から北半球では颶風の右半圓を危険半圓と稱してゐるが、特に其の後象

限（低氣壓の進行方向に對して、前部を前象限といひ、後部を後象限といふ）に當る海面は風浪が強大である。艦船は氣象の現状とその推移に注意し、また船の性能を考慮して最善の方策を講ずるのである。船内で天氣圖を描く能力のない小型漁船などでは、ラヂオの氣象放送によつて低氣壓等の位置を知り、船の安全に對し深甚の注意を拂つてゐる。

以上は一般航海の場合のことであるが、軍艦の行動には、時に作戦上の重大な要求があるから、常に安全第一のみを固守することはできない。絶対要求の前には多少の犠牲を拂つても荒天怒濤を突破しなければならぬ。又對敵行動中猛烈な低氣壓が來襲するやうな場合には、これを最

も有効に利用するやうな方策をとらねばならぬこともある。これがためには精確な天氣豫知を必要とするのは勿論、低氣壓や霧など氣象現象の實體を明らかにしなければならぬ。

以上述べたところは艦船の行動乃至は作戦實施に當つての氣象の警戒利用に關することであるが、艦船が一般航海或ひは作戦行動を實施するに先だつて、先づ第一に實施計畫を立てなければならぬ。この場合その日その時によつて變る將來の氣象現象を基礎とすることは、現状に於ては不可能であるから、氣象の統計資料に基づきより仕方がない。氣象統計資料は航路の選定その他行動作業の立案上好箇の資料である。低氣壓や霧の多い海面を行動しなければ

ならぬ場合には、豫じめこれに對する準備なり腹案なりが充分出来るのである。

二 航空機と氣象

近時航空機の性能は著るしく増大し相當の悪天候にも堪へ得るやうになつた。然し未だ天候の爲め行動を支配されることは艦船などと比較にならない。

飛行上最も障害となるのは、雲霧のやうな著るしく視界を狹隘ならしめるものである。雲霧中の飛行は恰も暗黒の野を高速力で駆け廻るやうに衝突の危険が大であり、また自己の位置が不明となる。故に霧や低雲が地上を覆つてゐる場合には、雲霧上に出で視界の開けた空を飛行する

ことが安全である。
然し雲霧の厚さや其の中の氣流狀況が明らかでない、これを貫いて雲霧上に出ることは危険である。なぜかといふと、雲霧の種類によつてはその厚さが數千メートルにも及ぶものがあり、又氣流が極めて不良なものもあるからである。氣流が不良な場合には飛行機の動揺が甚だし、猛烈な惡氣流に遭遇するときは操縦の自由を失ひ危険である。従つて雲や霧の厚さを測定し又猛烈な惡氣流を伴ふ雲の種類を知ることは極めて重要なことである。低氣壓が飛行上の障害となるのも、要するに滿天を覆ふ低雲や降雨などによる視界の狹隘と、猛烈なる惡氣流による

風の影響も亦大である。飛行を不可能ならしめるやうな強烈な風は暫くおき、飛行可能な程度の風の利用については大いに研究しなければならぬ。例へば毎時百哩の速度で飛行中、二〇メートルの逆風を受けた場合には速度は約六〇哩に減じ、追手の風ときは約一四〇哩となる。風向風速は地方的にも異り、又垂直的にも變化がある。地面近くで北の風るとき上空に南の風が吹いてゐるやうな場合も珍らしくない。故に飛行機は適當な高度と航空路を選定することによつて、風を十分利用することが出来る。兩地間の飛行最短時間は必ずしも二地間の直線上の飛行ではないのである。

航空機のために、氣象臺から航空氣象實況が一日十數回放送されてゐる。これを受信すれば各地に於ける視界、最低雲高、雲量、天氣等がわかる。故に飛行を實施しようとするに當つて、これに依つて各地の氣象状態を見極め、更にさきに述べた氣象實況報に基づき、天氣變化の豫測を立てることが出来るのである。
民間航空では安全第一をモットーとしなければならぬので、氣象の警戒については深い注意を拂つてゐる。軍用航空でも保安に對して萬全の策を講じてゐることはいふまでもないが、艦船と同様に作戦上の緊切な要求の下には、多少の犠牲を拂つても任務を遂行しなければならぬことがある。例へば低氣壓や雲霧中を巧みに突破し、敵の意表に出で、行

動するとか、或ひは又雲態を利用し隱密裡に敵に近接するなどの必要も起るのである。即ち軍用航空に於ては氣象の積極的利用が緊要である。そのためには氣象の徹底的調査研究を不可欠の前提とすることはいふまでもなう。

「軍事と氣象」

艦船、航空機の使用上、氣象の利用警戒に關し考慮すべきことによつて、斷片的に述べたが、その他軍事上の見地から氣象の利用に關し研究しなければならぬ問題はたくさんある。例へば彈丸は空を飛ぶものであるから風向、風速及び空氣の密度の大小に依つて彈着點が偏倚する。飛行機や軍艦などから展張される

煙幕は、風や氣温の状況に依つて影響を受けることが大きい。又空間の混濁度如何は、視界の良否を左右し、従つて偵察上に大きな影響がある。

放送が禁止されたことがある。これらの事實は氣象が軍事上如何に影響大なるものがあるか、この邊の消息を物語るものである。

寫眞週報

三月六日號

最近航空機や化學兵器の進歩は特に著るしく、これに伴つて軍事上に於ける氣象の利用警戒は一層重要となつてきた。第一次歐洲大戰の際、戦線で氣象觀測が盛んに行はれ、或ひは又必要に應じて國內一般の氣象實況報やラヂオ氣象

- ★今から三十五年前のこの日—奉天入城の大山元帥以下諸將星
- ★魯東作戦終る
- ★自給自足のお臺所部隊
- ★金なき大阪市をめざして
- ★春の開宴
- ★杭州放送局
- ★陸物ペーチ



米國務次官の渡歐と和平問題

外務省情報部

緊迫する情勢と和平への希望

歐洲大戰勃發以來既に半歳を經過したのであるが、獨佛國境の西部戦線は依然として相對峙したまゝで、最近頻りに春期攻勢説が傳へられてゐるが、未だ何等戦局の發展を見ない。一方、海上に於ける通商破壊戦はいよゝゝ深刻奇烈を極め、しかもソ芬戦争の勃發によつて北歐の事態は極めて重大な情勢を示しつゝあり、また、バルカン及び近東方面も英獨の資源争奪戦を繞つて、或ひはソ聯の進出によつて俄然緊迫した情勢を傳へてゐる等、戦禍は正に各方面に波及し、英獨佛の交戦國はもとより、中立諸國も交戦國に劣らない不安と困難の事態に直面しつゝある。

而して、ポーランド征服によつて既に中欧發展の目的を達し得たドイツは英佛との戦争を欲して居らず、また、ヒトラー打倒を決意して起つた英國と雖も、戦争なくしてドイツとの妥協の途を見出さんことを希望してゐることは明らかである。況んや、その餘波に苦しんでゐる中立諸國は、一日も早く和平の成らんことを切望してゐるのである。

従つて、各方面に於て和平が主張され、種々なる工作が試みられてゐることも當然であつて、既に昨年末頃から、和平に關する各種の風説が傳へられつゝあるが、今次、米國のルーズヴェルト大統領がウエルズ國務次官を歐洲各國に派遣するに至つて、俄然、和平問題に一段階を進めるも

のとして全世界の關心を集めつゝあるのである。

ウエルズ次官の渡歐發表さる

ルーズヴェルト大統領は、二月九日の新聞記者との定例会見に於て、ウエルズ國務次官は大統領の囑望によつて伊、佛、獨、英の諸國を訪問する旨を發表すると共に、



ウエルズ國務次官の現狀について大統領並びに國務長官に報告する目的であり、米國政府の名に於て各國政府

に對して提議、若しくは約束をする権限を與へられてゐないものであるといふことを附言したのであつた。

なほ、右大統領の發表に續いてハル國務長官は

世界の各地に於ける戦争状態が、中立國に及ぼす影響並びに恒久的基礎に立つ世界平和の恢復を求むる中立國全體の希望に鑑み、米國政府は中立國政府と非公式

の外交上の談合を既に始めたが、恐らく今後總ての中立國政府とこれを續行するであらう。但しこれ等の談合は別段の計畫を有する次第にあらずして健全なる國際的經濟組織と、世界的軍縮に關する豫備的意見の交換たる性質を有するものであることを強調する。なほ、右豫備談合は現在の戦争状態に關する諸問題に互らなないが、將來の平和に關する前記二問題に關する限り、固より交戦國とも談合することがあるであらう。

といふ聲明を發表し、米國政府が中立諸國の健全なる國際經濟の維持及び軍縮を根幹とした非公式會談を開始しつゝある事實を明らかにしたのであつた。尤も、このハル長官の聲明は、ウエルズ次官の歐洲訪問とは無關係であると説明されたが、しかし、恰もウエルズ次官の渡歐の發表と同時に行はれた點について、相當意味のあるものとして注目を感じたのであつた。

かくてウエルズ次官は、モファット歐洲局長以下の隨員を同伴して二月十七日ニューヨークを出發し、イタリヤに向つたのであつたが、恰も、さきにローマ法王廳の特使に

任命されたデーラー氏も同船し、ウェルズ次官と共にローマに赴任したのである。

これまでの和平工作の動き

昨年十月六日、ヒトラー総統は英佛に對して和平を提唱したのであるが、これは英佛側の容るゝところとならなかった。また、その後、十一月七日、ベルギー及びオランダ兩國の元首が、英佛獨双方に對して和平調停を申入れたのであったが、これもまた英佛側の謝絶によつて實現を見るに至らなかつたことは既に周知の如くである。

しかるに、十二月上旬、駐英ケネディ大使が歸國してルーズヴェルト大統領に歐洲の現状を報告した折に、英國側の和平に對する意向が傳へられたものと見られてゐたが、また一方、ローマに於ては、十二月二十一日、ヒムラー親衛隊長によつてヒトラー總統の和平に對する意向がムッソリーニ首相に傳へられたと報ぜられてゐた。

さらに、右と前後してムッソリーニ首相は、ボンセ佛大使の歸國に際して、和平調停に關するムッソリーニ首相よりラ

ラディエ首相に宛てた親書が送られたのであつたが、これに對してグラディエ首相は、和平調停の時機尚早であることを指摘し、いづれ英國側との協議上回答する旨の返書を送つたといふ風説も傳へられたのであつた。



デーラー氏
が、十二月二十三日、ルーズヴェルト大統領はユー・エス・スチール會社長のマイロ

ン・チャールズ・デーラー氏をローマ法王廳に對する特派使節に任命し、それと同時にローマ法王に親書を送り、世界の平和と秩序維持のために協力せられたる旨を要請したことが發表された。

しかも、爾來、ワシントンに於ては、ルーズヴェルト大統領が米國宗教界の最高指導者であるプロテスタント教會

聯盟會長バトリック博士、ユデヤ教會聯合會長アドラー博士等と協議を重ね、或ひは屢々イタリヤ大使と會見して種種折衝を遂げた模様であつたが、また、一方ローマに於ては、ローマ法王が十二月二十五日に發表したクリスマス教書の中に於て、民族の權利の承認、軍備の縮小及び不當條約の改訂を原則とする和平を提唱し、大戰後の平和の基調として國際正義を強調したのであつたが、



これと前後して、イタリヤ國王エマヌエル三世とローマ法王ピオ十二世との間に交際が行はれ、この間に和平問題に對するイタリヤ政府とローマ法王廳との協力が成り立つたと傳へられてゐる。

かくて今年に入るや、ソ芬戰爭も終局に近づき、一方に於てバルカン近東の緊迫が傳へらるゝと共に、ドイツの春期攻勢説が注目を惹くに至つたのに伴つて、和平工作の進展も各方面から關心を持たれつゝあつた折から、今次のウェルズ國務次官の歐洲訪問が發表されたのである。

注目されるヒ總統との會談

ウェルズ國務次官の英佛獨伊諸國訪問は、歐洲の現状に對する正確な判斷の基礎となるべき情報の蒐集にあると説明されて居り、一般に大統領選舉を控へた米國の國內事情を目標としたものであるとの觀測も多く、従つて、英佛側に於てはウェルズ次官の訪問を歓迎するが、直接和平問題に對して期待するところは少いかの如き態度を示し、またドイツ側はその成行に對しては重大な關心を示しつつも極めて慎重な態度を採つてゐたのである。

しかし、ウェルズ次官の歐洲訪問に先つて、歐洲の中立

諸國に於て、ドイツ側の和平條件として、非賠償を原則とし、ズデーテン及びダンチヒ並びに廻廊をドイツに歸屬せしめ、オーストリアは英佛獨三國監督の下に人民投票を以て歸屬を決定し、またポーランド及びチェコスロヴァキアは英佛獨三國の會議によつてその處分を行ふこと、及び植民地問題並びに經濟再建設については國際會議によつて協議するといふやうな内容が傳へられて居り、或ひはさらにそれに附け加へてヒトラー總統は實權をゲーリング空相にゆづつて單に大統領としての地位に留まるといふこととまでも報ぜられたことは、相當意味深きものとされてゐる。

かくて、ウェルズ次官は、二月二十五日イタリアのナポリに到着し、二十六日にチアノ外相並びにムッソリーニ首相と會見して重要會談を行つたのであるが、その内容については種々な報道が傳へられてゐるも、勿論、正確なことは不明である。

なほ、ウェルズ次官はイタリア政府首脳部との會談を終

へて三月一日、ベルリンへ向つて出發したと報ぜられてゐるが、果してベルリンに於てヒトラー總統、リベントロップ外相等と會見した結果、如何なる談合が行はれるであらうか。今や、世界の關心は、この會談に集められてゐるのである。

思想戦展の地方開催

内閣情報部主催の下に去る二月十日から廿五日まで東京高島屋で開かれた「思想戦展覽會」が、新しいお膳立て各地方に巡展することになりました。

大阪	三月十二日—十九日	於高島屋
名古屋	三月十九日—廿六日	於松坂屋

二千年六百年史抄

内閣情報部参員

菊池寛

平安時代

紀元千四百五十四年、第五十代桓武天皇は、山城國葛野郡宇太野に都を奠められた。これが平安京、現在の京都である。左右兩京の制、條坊の區劃などは、廣大なること奈良以上である。今の京都は、左京から東部と北部とに發展したのである。爾來、平安京は明治元年まで、千七十五年間の帝都であり、源賴朝が幕府を開くまで、凡そ四百年間政治の中心であつたので、その間を平安時代と云ふのである。

平安京への遷都は、國運の進展に伴ひ、交通至便な土地を求められた意味もあるが、奈良時代末期に於ける佛教の政治に及ぼす弊害を避けられる意味もあつたと云はれる。

されば、桓武天皇は、佛教の改革に、御心を用ひられてゐたが、あたかもよし、この時代に空海(弘法大師)最澄(傳教大師)の二傑僧が現はれ、佛教自身、その宿弊を一掃した。

最澄も空海も、政權の地を離れて、山林の地にその本寺を置いたこと、佛教と日本固有の神祇崇拜との調和を圖つたこと、また彼等の創始した天台宗及び真言宗が、必ずしも唐土傳來のものでなく、日本人の思索が、十分加味せられてゐた點に於て、この二人は日本佛教の危機を救ひ、その宗教的基礎を確立した人と云つてもよい。

たゞ叡山は、あまりに京都に近かつたため、以後屢、政争の渦中にはひつたことは、止むを得ないことだつた。

空海は、宗教界の偉人であるばかりでなく、わづか一年九ヶ月餘の唐土留學に於て、繪畫、彫刻、詩文、書法、音韻學、醫道藥物、その他土木、造筆、製墨、製紙の諸技術など、あらゆる唐土文化の藝能技術を習得して傳來した點に於て、その才能努力は殆んど超人的である。弘法大師について、いろいろの奇蹟が傳はつてゐるのは、その功績に對する當時の讃嘆から生れたものであらう。

平安時代の初期に於て、その武功の傳ふべきは、坂上田村麻呂であらう。

延暦十六年、田村麻呂を征夷大將軍として、東北の蝦夷(アイヌ)を征せしめられたが、田村

麻呂の武威は精悍な蝦夷を各地に破り、膽澤城(岩手縣南部)志波城(盛岡市南方)を築いて、大いに皇威を輝かした。以後多少の波瀾はあつたが、平定の基に定まり、史上に殆んど蝦夷の名を止めないところを見ても、その武功を想見することが出来る。

平安時代の御世に於て、第六十代醍醐天皇第六十二代村上天皇は、英明の質を以て、親しく政を聞し召され、御世は泰平で文化はいよゝ榮えた。世に、延喜、天曆の治と申し上げるのであるが、この頃漸く萌したものは、藤原氏の横暴であつた。

大化改新の功臣たる藤原鎌足の子孫が、朝廷に勢力を占むるは、當然の勢ひではあらうが、彼等は他の名門、舊家を排斥し、皇室の外戚として、攝政關白、その他の高位高官を獨占する傾向を生じてゐた。橘、廣相、菅原道真、橘逸勢などは、藤原氏專制の犠牲者の最も大なるものである。

藤原道長の如きは、一條、三條、後一條三天皇の御代三十餘年にわたつて、政治の最高樞機に與り、その子頼通も、父について、攝政または關白たること五十餘年であつた。

かうした藤原氏の政權濫觴は、やがて平清盛の模倣するところとなり、ひいては、源賴朝の幕府思想の萌芽となつたのではあるまいか。その點に於て、藤原氏罪有りと思はれる。

聖德太子の飛鳥時代以來、平安初期にかけての支那文物の渡來は、夥しいものがあり、日本の

美術、工藝、文物制度は、殆んど唐に劣らない程度に達してゐたのではないかと思はれる。されば、宇多天皇の寛平六年に、菅原道真が遣唐大使に任ぜらるゝや、道真は、唐が既に衰世であり、危険なる航海を冒してまで、彼の文化を輸入する必要がないことを奏上して、遣唐使は爾後長く廢止になつた。

支那の文化は、それほど發達したわけでもないから、この遣唐使の廢止は、かへつて時宜的であつて、支那よりの影響が中斷したため、支那傳來の文化は、以後いよいよ日本化され、わが國獨得の文化を産むに至つたのである。

唐風を真似てゐた住宅、衣服等も、日本化して行つたし、漢文學の盛んであつたため、國語を寫すにも漢字を用ひてゐた習慣が打破され、誰發明するともなく、平假名や片假名が自然に案内され、短歌、ひいては國文學の發達を促した。

「古今和歌集」「後撰和歌集」に依つて、男女の歌人が輩出したし、國文學に於ては、清少納言の「枕草子」紫式部の「源氏物語」などが出た。

源氏物語は、歐洲に於ける寫實小説の元祖であるボッカチオの「十日物語」よりも尙ほ三百五十年前に書かれて居り、支那小説「水滸傳」よりも、一世紀先に書かれてゐる。

その他「土佐日記」「伊勢物語」「竹取物語」「今昔物語」など注目すべき作品は頗る多い。

又、漢文學に於ても、菅原道真、紀長谷雄、三善清行などは、支那人に劣らないくらい、立派な漢文を書いてゐる。

書道に於ても、空海、道真と、次第に唐風を捨てて日本風となり、道風に至つて、上代風といふわが國獨得の書風が完成された。

一方、草假名といつて草書を思ひ切つて崩した平假名が出来、日本獨得の美術的な書體を作つた。

建築も、彫刻も良く、日本趣味のものとなつた。繪畫も、巨勢金岡が、宗教と離れ、倭繪を創始した。更に、藤原基光が、最も日本的な土佐派を起した。

又、刀劍鍛冶も、唐傳來の技術を多少受けたかも知れないが、早くも世界獨得の日本刀を造り始めた。

備前鍛冶、三條小鍛冶などがそれである。

又、官制の上にも、國司の治績を監督する勘解由使、宮中に於ける機密の文書を司る藏人所、京都の治安裁判に當る檢非違使など、大寶令にない純日本的な職制が設けられたことも、此の時代に於てである。

(この「二千六百年史抄」に限り無斷轉載を禁ず)

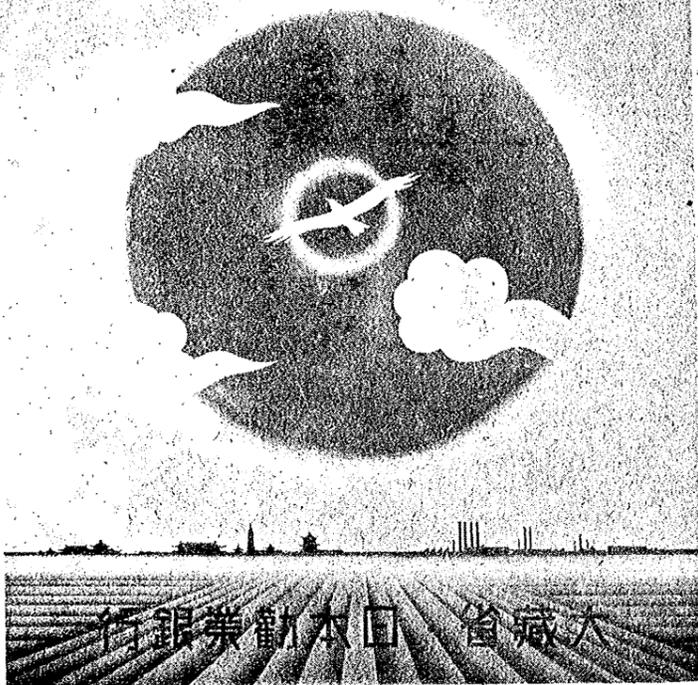
週

報

昭和十五年三月六日
種郵便物認可
（毎週一回水曜日発行）

支那事變 貯蓄債券

出賣 三月五日 二月二十六日
一等 割増金 五百円
一 枚 四十円
奉祝 紀念 二元 二千 六百元



(判[A5]格規定國はさき大の書本)

内閣印刷局印刷發行

露光量違いにより重複撮影

週報

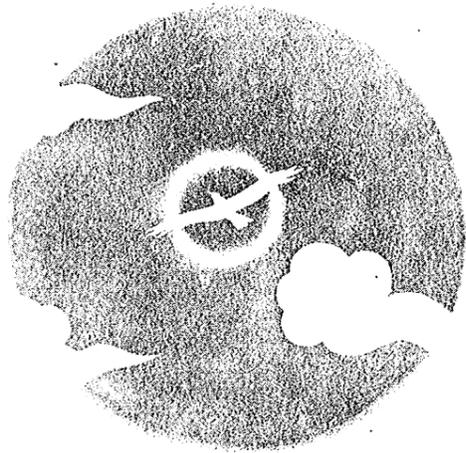
昭和十五年十月六日
種郵便物認可

毎週一回水曜日発行

内閣印刷局印刷發行

支那変率貯蓄債券

賣出日三月五日
リヨ日十二月六日
一等割増金五千円
一枚四十円
奉祝紀念二元二千六百年



(判[A5]規格定國はさき大の書本)

露光量違いにより重複撮影